第４章　基本計画

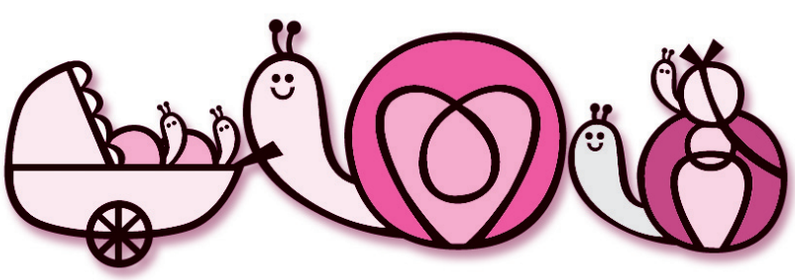
第3次活動計画の基本理念である「一人ひとりが尊重され、必要とされる社会の実現に向けて」、自立と自己実現が重視される南区の福祉のまちづくりを推進していくため、以下の3つの基本計画を設定しました。

１．一人ひとりが支え合う仕組みづくり

昨今の少子高齢化、核家族化などを背景に、子育て・介護など生活のあらゆる場面で困難を抱える人が多くいます。特に、集合住宅が多く、市内で最も高齢化率が高い南区においては問題が見えにくく、重度化しがちという課題もあります。誰もが安心した生活を送るためには、一人ひとりが地域とつながり、お互いに支え合える関係性をつくることが大切です。

そのために、ご近所さんと顔のつながりをもち、地域と接点をもてる人を増やすための場づくり、声かけ運動を推進します。また、身近なところに困りごとを発信できる場をつくるほか、困りごとを抱えながらも自分からは声を上げられない人へ向けた働きかけをします。さらに、それらの取り組みによって掘り起こした困りごとを、ボランティアグループや町内の支え合い活動などと連携し、地域住民のみなさんとともに解決する体制をつくります。解決の担い手として、高齢者・障がい者・子育て世代にも、それぞれの強みを活かし、活躍していただけたらと思っています。

支える側・支えられる側という一方向の関係ではなく、誰もが自分の強みを活かして役割をもち、おたがいさまの気持ちで支え合える地域づくりを目指します。



2．福祉の心をはぐくむ人づくり・まちづくり

『福祉』や『ボランティア』といった言葉自体が、まだまだ、「特別なもの」や「敷居が高い」などと思われている方もあると思います。

こうしたことも意識して、広く地域住民の方へ「福祉意識の向上」や「身近に福祉を感じられる」といったことをキーワードとし、「１．一人ひとりが支え合う仕組みづくり」「３．学区を基盤としたネットワークづくり」の基本計画の土台（福祉の土壌）とも成り得る人づくり・まちづくりを目指していきます。

また、第２次活動計画事業の「ここバリ（心のバリアフリー）すぽっと」を充実させ、併せて、広く地域住民の方へこの事業を知っていただきたいと考えています。

さらに、福祉情報を広く発信していくために、世代に応じた情報発信媒体なども検討していくことが必要と考えています。

3．学区を基盤としたネットワークづくり

地域には高齢者、障がいのある方、子どもなど、様々な人たちが暮らしていますが、地域住民同士のつながりが希薄になってきています。災害等のいざというときの助け合いのためにも、日ごろ地域で顔の見える関係をつくることが欠かせません。

そのために、地域団体や福祉施設、企業等、様々な社会資源と連携し、より多くの住民が関わりあえる機会をつくり、地域福祉の活性化を推進していきます。

また、各学区において地域団体等により構成された地域福祉推進協議会の推進を支援するため、広報等の改善や、効果的な研修や交流会を進めていきます。

こうした取り組みを通し、学区でのネットワークを構築し、多くの地域住民が地域とつながりあえるような地域づくりを目指します。